



ないとう ひろし
内藤 浩

新政田原自民クラブ



今回の渇水を踏まえた今後の備えは

今回の取り組みのプロセスを取組ガイドとして次回以降への備えとする

異常渇水を踏まえての上水道の今後の取り組みについて

問 今回の渇水への対応状況と評価、今後の備えは。
答 節水対策については、豊川用水節水対策協議会の給水制限の決定に沿って実施した。本市では田原市渇水対策本部設置要綱に定めた水道用水給水制限に応じた対策を実施した。評価については、愛知県から要請された給水制限の率に応じた目標水量を守れなかった日は、243日に及ぶ節水期間のうち累積11日あったが、総受水量では目標を達成することができた。全庁を挙げての広報活動もあり市民の皆様の危機意識の高まりにより節水行動が浸透し、断水に至らなかったことを大きな成果と捉えている。今後の備えについては、ハード対策として老朽化する施設や管路に対して、点検や補修による維持管理および更新による適正化を計画的に進めていく。ソフト対策として、早い段階から情報発信や節水への呼びかけ等、今回の取り組みのプロセスを取組ガイドとして次回以降の備えとする。

令和8年7月1日付で「新政田原自民クラブ」から「田原自民クラブ」に名称が変更になりました。

問 限られた水資源の有効活用と漏水対策は。
答 本市の有収率は、令和6年度86.48%で、無効水量を減らすため漏水調査等を実施している。本市の上水道管路延長は約701キロメートルあり、ほとんどが地中に埋設されているため、漏水箇所の特定が困難である。令和7年度に実施した衛星画像解析による調査で、半径100メートル範囲で漏水の可能性のある領域を171カ所に絞り込めたが、管路総延長は81.8キロメートルになる。本年度から、その調査結果を基に現地で音聴調査を実施し、計画的に修繕を実施していく。



問 認知症施策の取り組みと成果は。
答 認知症当事者による講演会と映画の上演を実施し、参加者からは、「認知症を他人事でなく自分事として捉え直す機会となった」との声を多く頂き、成果があったと考える。

問 認知症当事者の声を発信する機会を増やし、認知症施策に生かすための今後の市の考え方は。
答 認知症当事者が安心して語り合える場や認知症当事者の声を発信する機会を増やしていく。

問 次期高齢者福祉計画の策定が始まっているが、認知症の方への社会参加や活躍の場について、どのように計画に反映していくのか。
答 認知症の方やその家族の意見を把握するとともに、認知症になっても地域とつながりを持ち自分の能力や経験を生かし、活躍できる環境づくりの視点を取り入れ計画に反映させたい。